[成果情報名]「させぼ温州」の果梗部亀裂の軽減に有効な袋掛け時期

[要約]「させぼ温州」は、収穫期になると果実果梗部に亀裂を生じやすい。そこで、亀裂が発生する前に袋掛けを行うことで障害果の発生を軽減できる。

[キーワード]させぼ温州、完熟栽培、果梗部亀裂、袋掛け、被害度

[担当]長崎果樹試・生産技術科

[連絡先]電話 0957-55-8740、電子メール s26700 @ pref.nagasaki.lg.jp

[区分]果樹

[分類]指導

[背景・ねらい]

「させぼ温州」は、果実特性として糖の集積が生育後期まで続くが、減酸が遅く果実の老化現象となる果梗部の亀裂が収穫期に生じやすい。とくに成熟期の降雨は、障害果発生を助長する要因の一つと考えられる。そこで果実への降雨の影響を少なくするため袋掛けによる果梗部亀裂障害の軽減効果を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 果梗部亀裂を中心にした果実障害は、11 月 20 日頃から発生する(図 1)。
2. 被害程度の大きい障害果の発生は 12 月上旬から増加しており、この時期が収穫の限界と推察される（図 1)。
3. 袋掛けを 11 月上旬に行うと、2 カ月後の翌年 1 月上旬に収穫した場合でも障害果の発生が軽減する（図 2、表 1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 果梗部の亀裂は、樹のストレス程度や気象状態により発生程度が異なることに留意する。

［具体的データ］

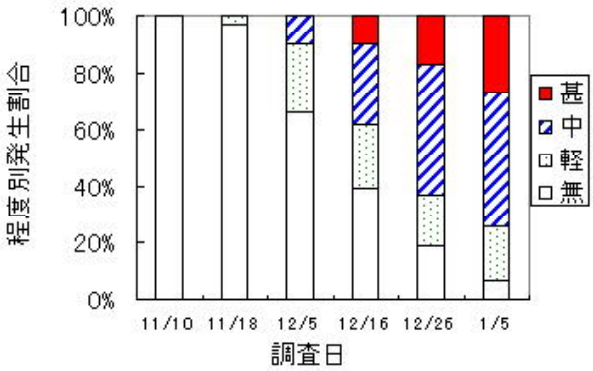

図１　果実果梗部障害発生の推移（2005）

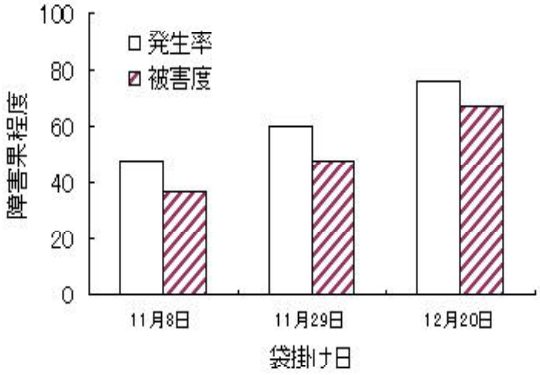

図２　袋掛け時期の違いと果実果梗部障害発生程度(2005.1.28調査)

表１　袋掛けの有無と果実果梗部障害発生程度

区　分	袋掛けの有無	果梗部障害果発生率（%）				被害度[z]
		無	軽	中	甚	
若齢樹（8年生）	有袋[y]	62.6	7.3	14.2	15.9	27.8
	無袋	7.0	19.0	47.0	27.0	64.7
高接ぎ樹	有袋	50.0	11.4	29.4	9.1	32.5
	無袋	35.0	21.7	28.3	15.0	41.1

Z　被害度

$$\frac{(1\times軽の発生果数)+(2\times中の果数)+3\times甚の果数)}{(3\times総調査果数)}\times 100$$

y　袋掛け時期：若齢樹は 2005 年 11 月 4 日、高接ぎ樹は 11 月 2 日

注）調査日は 2006 年 1 月 5 日、高接ぎ樹有袋は 2006 年 1 月 10 日

写真 1　健全完熟果

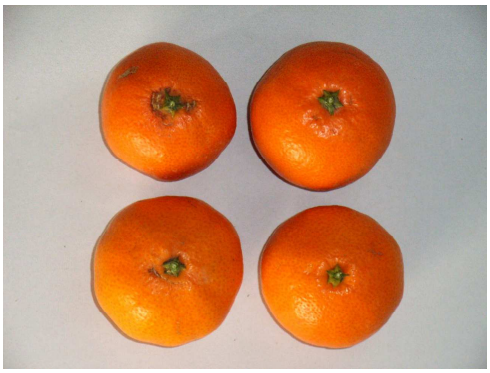

写真２　障害果発生程度
（右下無、右上軽、左下中、左上甚）

［その他］

研究課題名　：長崎ブランド「出島の華」の安定生産技術の確立
予算区分　：県単
研究期間　：2004 ～ 2007 年度
研究担当者　：古川　忠、林田誠剛